

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4079800191
法人名	社会福祉法人 福智会
事業所名	グループホーム ふくち
所在地	福岡県田川郡福智町弁城4193-28 (電話) 0947-22-2101

評価機関名	福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	H21年 7月 4日
評価確定日	H21年 8月 6日

【情報提供票より】 (平成21年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 11月 1日
ユニット数	2 ユニット
利用定員数計	18 人
職員数	13 人
常勤	12人
非常勤	1人
常勤換算	10.8人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有() 円	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有() 円	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,100 円		

(4) 利用者の概要 (平成21年6月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	6 名	要介護2	6 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	73 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田川慈恵病院 永末歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

緑豊かな山々に囲まれた自然の中にあり、母体法人が運営する特別養護老人ホームに併設された木造平屋建ての事業所である。敷地内には田畑や藤棚が設けられ、職員手製の竹垣や花で彩られている。居住空間は木の温もりを活かした家庭的で暖かみのある和やかな雰囲気である。利用者の権利や尊厳を重視し、本来の力を最大限に引き出すという理念を掲げ、利用者主体のサービス提供や地域交流を全職員が一丸となって実践している。利用者と職員が和やかに会話を楽しみ、毎日の生活を楽しむことができるよう季節感あふれる催しや法人との合同行事、バスハイク等の行事を充実させている。また、職員がスキルアップできるよう内部・外部研修に参加する学びの機会を保障している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題について、全職員で話し合い、改善計画を立て、評価を活かして具体的に改善している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、全職員で取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を定期的開催し、率直に意見や要望を言える関係作りに努めている。そこでの意見や要望は、日頃のケアに結びつける取り組みを行っている。また、会議録を作成している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	意見箱を設置し、家族の来訪時は意見や要望を気軽に表出できるよう雰囲気作りや声かけを行っている。家族会では活発な意見交換が行われ、家族の意見や要望を表明しやすい仕組みを作り上げている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の清掃活動に参加し、夏祭りを開催している。また、法人全体で運動会・敬老会・文化祭を開催している。実習生の受け入れや保育園の訪問等があり、地域と積極的に交流することに努めている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えているサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念に地域密着型サービスの視点が含まれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼、終礼、その他会議等において、理念の実践に向けて具体的に考えるなど、日々取り組んでいる。		
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の清掃活動に参加し、夏祭りを開催している。また、法人全体で運動会・敬老会・文化祭を開催している。実習生の受け入れや保育園の訪問等があり、地域と積極的に交流することに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、全職員で取り組んでいる。前回評価での改善課題について、全職員で話し合い、改善計画を立て、評価を活かして具体的に改善している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行い、率直に意見や要望を言える関係作りに努めている。そこでの意見や要望は、日頃のケアに結びつける取り組みを行っている。また、会議録を作成している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政職員と地域の福祉関係者が集まる会議を開催し、事業所の問題や地域の課題について話し合う機会がある。行政と協働して、事業所及び地域福祉のサービスの質の向上に取り組んでいる。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度について内部研修で学ぶ機会があり、報告・伝達を行い、共有化を図っている。パンフレット・研修記録・報告書がある。利用者や家族には、来訪時に説明を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	3ヶ月に1回、事業所便りを発行し、利用者の暮らしぶり・行事の様子を報告している。家族来訪時に状況を報告し、緊急時等は電話で対応している。金銭管理については、定期的に出納帳や預金残高を家族に報告している。領収書は家族の要望に応じて提示している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、家族の来訪時は意見や要望を気軽に表出できるよう雰囲気作りや声かけを行っている。家族会では活発な意見交換が行われ、家族の意見や要望を表明しやすい仕組みを作り上げている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は異動や離職を抑える努力をしている。職員が離職等した場合は、利用者へのダメージを防ぐために、職員間の引継ぎ期間を十分に設けている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の採用にあたっては、性別・年齢等に関係なく熱意や適性を重視している。職員の長所が活かせるような役割分担を行い、能力を発揮して、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>人権に関する内部研修を行っている。パンフレット・研修記録・報告書がある。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員一人ひとりの能力や経験に応じて、年間目標を作成している。職員の学ぶ機会を保障し、能力に応じた研修を受講できるように配慮している。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>行政・社会福祉協議会が主催する会議や地域のグループホーム協議会に加入している。毎月行われる会議に参加して、意見交換や課題の改善に取り組んでいる。また、他事業所の見学を受け入れ、サービスの質の向上に努めている。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前に、見学や自宅訪問等を行っている。サービス開始時は利用者の意向やペースを尊重し、集中的に見守りや観察を行っている。時間をかけて話を聴く等コミュニケーションを重視し、徐々に事業所に馴染めるような工夫をしている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	料理や菜園作り等を共に行い、編み物や梅干し・干し柿作り等、職員が知らない知識や技を利用者から教えてもらう場面がある。利用者の得意分野で力を発揮してもらいながら、職員と利用者が共に過ごし、学び、支えあう関係を築いている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	利用者一人ひとりの希望や意向は、言葉や表情、行動等から把握している。意思疎通が困難な場合は、家族から聴き取った生活歴等を参考にす等し、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	介護計画は、家族から思いや意見を聴取し、全職員の気づきを取り入れながらケアマネジャーが作成している。本人・家族の署名・押印がある。		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	介護計画は3ヶ月に1回、見直している。また、状態変化等生じた際には、必要に応じて介護計画を見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	利用者が入院した場合は、医療機関や家族と連携を図り、早期退院に向けて取り組んでいる。医療機関等への通院の送迎支援については、その時々々の要望に応じて柔軟な対応をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族希望のかかりつけ医の受診を基本としている。職員は受診の際に付き添い、病状の経過については電話で家族に報告している。通院方法、情報の伝達方法について家族と話し合い、合意している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方について方針があり、入所時に家族等へ説明している。職員、家族、医療機関と話し合い、全員で方針を共有している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	内部研修で職員の意識向上を図っている。管理者は日常的にプライバシーの確保について職員に話し、言葉かけや対応に配慮している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、その日の利用者の要望、体調及び一人ひとりのペースに合わせ、畑作りや買い物・散歩等、希望にそって柔軟に対応している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は、一緒に準備や食事、片付けを行っている。同じテーブルでさりげなく見守りと介助を行いながら、同じ内容の食事を一緒に食べている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	大まかな入浴時間の設定はあるが、利用者の生活習慣や希望に合わせて、入浴支援を行っている。入浴拒否の人にはタイミングを計りながら言葉かけを工夫し、入浴を楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や趣味を活かした野菜作り、大工仕事、干柿作りや編み物等、役割や楽しみごとの支援をしている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩、月2回の外出や買い物、ドライブ等、天候や利用者の希望、体調に配慮して、戸外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、居室や玄関は施錠していない。玄関にはチャイムを設置している。職員は、利用者の外出傾向を把握し、外出時には見守りを行っている。隣接する母体施設へ見守りや声かけを依頼し、また独自に地図を作成する等、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災計画及びマニュアルを作成している。2ヶ月に1回の避難訓練、年1回の消防署の協力を得て訓練を実施している。非常時にサイレンを鳴らして、地域住民の協力を得るようにしている。母体施設に非常用食料・飲料水を準備している。	○	非常用食料及び飲料水は、事業所独自で準備してほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全利用者の栄養摂取量及び水分摂取量の記録がある。献立は利用者の嗜好の把握に努め、月1回、管理栄養士に作成を依頼し、栄養バランスに配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、木の温もりを感じる作りと調度品で、家庭的雰囲気に配慮している。また、各ユニットに中庭があり、季節感が感じられるよう工夫している。利用者にとって不快にならないよう、テレビや音楽の音量に配慮している。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の馴染みの家具や家族の写真、小物、仏壇等が持ち込まれ、居心地よく過せるような工夫をしている。		

※ は、重点項目。